

社会・文化・教育



キーワード：差別、人権問題、社会啓発

“差別する可能性”をめぐる社会学

現代社会学部 現代社会学科 教授

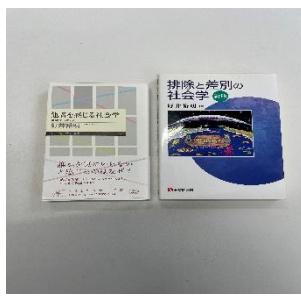
好井 裕明 YOSHII Hiroaki

研究の内容

現代社会学の最新理論・方法論である「エスノメソドロジー」を駆使して、日常的差別や排除現象の分析を行った。その結果、日常生活において「人は誰でも差別する可能性」があるという知見を得た。差別問題を考える基本は、被差別の立場から考えるということだが、それだけでなく、もう一つの基本として「人は誰でも差別する可能性がある」という考え方をもとにして、いかにすれば差別を他人事ではなく「自分のこと」として考え、行動できるのかをめぐり『差別原論』（平凡社新書、2006年）、『差別の現在』（平凡社新書、2015年）、『排除と差別の社会学（新版）』（有斐閣、2016年）、『他者を感じる社会学』（ちくまプリマ－新書、2020年）、『「感動ポルノ」と向き合う』（岩波ブックレット、2022年）を執筆し刊行した。いずれも好評であり、大学教材だけでなく中高大の入試の現代文として多く使用されている。



左『差別原論』 右『差別の現在』



左『他者を感じる社会学』
右『排除と差別の社会学(新版)』



「感動ポルノ」と向き合う

産学連携・社会連携へのアピールポイント

「人は誰でも差別する可能性がある」という発想をもとにした差別論である『差別原論』は大きな反響を得ました。その結果、京都府や京都市、愛知県や名古屋市、東京都大田区など多くの自治体や業種団体の人権問題研修や社会啓発講座に講師として話をしてきてています。差別問題を他人事ではなく自分のこととして考える啓発研修には私の新書は必読であり、依頼があれば講師としてお話しにうかがいます。

研究者総覧（好井 裕明）

URL : https://gyoseki.setsunan.ac.jp/html/200000678_ja.html

